

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」

| 取組 テーマ | 取組目標 | 具体的な活動内容 | | 担当者 | 活動 主体 | 取り組んだこと、その実績 | 1年を振り返って |
|-------------------|--|----------|--|----------------|--------------------|---|---|
| 環境につ いての学 習 | ・自然に親しみ 自然を大切にす る気持ちを養 う。 ・昆虫の観察を 通して、自然へ の愛着を育む。 ・自然の恵みを 楽しむととも に、生活の中 に、生活の中 に活かす気持 ちを養う。 ・身近な自然へ の興味関心を 高める。 ・大豆の栽培、 収穫、調理加 工体験を通し て、食と自然 環境の関わり について関心 を高める。 | 1 | 育てよう(個人の鉢や、学年の花壇を利用し植物を育て、その生長を観察するとともに、自分たちの生活にいかす) | 先生(1年)(2年)(6年) | 児童・教職員(1年)(2年)(6年) | 【育てよう】 個人の植木鉢や学年の花壇で草花を育て、その生長の様子を観察し、自分たちの生活にいかす。[サツマイモ、ミニトマト、アサガオ、パンジー] →学年園を利用し、多くの植物を育て、観察できた。 また、地域の方を招聘し、その方の畑をお借りして、サツマイモを育て、収穫した。スイートポテト作りを行い、自分たちで育て、収穫、調理し、いただく体験を通して、自然に親しむとともに、自分たちの生活に生かそうとする気持ちをもつことができた。サツマイモの収穫は6年生と一緒にあった。6年生の総合の学習で収穫したサツマイモの一部を大学芋にして販売し、売り上げを能登半島地震の災害復興のために寄付した。 【虫を観察しよう・実をつかって楽しもう】 中庭にいる昆虫の観察。 校外学習で行った茅ヶ崎中央公園で拾った木の実を使って、工作をした。 →身近な自然への関心を高めることができた。 →拾った木の実を使って工作することを通して、自然を生活に取り入れ楽しむ気持ちをもたせることができた。 【小出川散策】 小出川周辺を散策し、小出川周辺の自然を観察した。 →地域の自然への関心を高めることができた。 【大豆を育てよう】 大豆を育て、その生長の様子を観察し、自分たちの生活にいかす。国語の「すがたをかえる大豆」の学習とつなげ、収穫した大豆をきなこや豆腐に加工し、いただく体験を通し、食と自然環境の関わりについて関心を高めた。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 多くの植物・虫の観察ができ、収穫の喜びも実感できた。収穫したサツマイモの一部を大学芋にして販売し、災害復興のために寄付する活動をおこなったことで、育てるに関わらなかった学年にも、自然と食に関する関心を持たせることにつながった。「すがたをかえる大豆」では、大豆の栽培、収穫をするとともにきなこや豆腐に調理加工し、食べる活動を通して、食や環境について意識を高めることができた。 【今後の課題】 各学年での連携をとって、引き継いでいくこと。(地域の方の協力に関しても、引継ぎが必要) 【次年度への引継ぎ事項】 畑をお借りした地域の方との連携を学校としてできる範囲で継続していきたい。 |
| | | 2 | 虫を観察しよう 実を使って楽しもう (探す、拾う、おもちゃ作り) | 先生(1年)(2年) | 児童・教職員(1年)(2年) | | |
| | | 3 | 小出川散策 | 先生(3年) | 児童・教職員(3年) | | |
| | | 4 | すがたをかえる大豆 (大豆を育てよう) | 先生(3年) | 児童・教職員(3年) | | |
| 電気、水、物を大切に | ・電気を大切にすることを、日 | 1 | 節電(教室の電気を天候に合わせて使う) | 先生(1年)(2年)(3年) | 全校 | 【節電】 天候に合わせて、空調の設定温度を調整する。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった |

(様式1) 学校エコ活動シート

| | | | | | | | |
|-------------|--|---|------------------------|----------------------------|------------|---|--|
| に使う活動 | 常の生活から学ばせる。 ・水の循環の学習を通して、水をきれいにすることの大切さを知り、水を大切にしようとする意識を育む。 ・自分の持ち物を大切に使い、学校での落とし物・忘れ物がそのままごみにならないように意識させる。 | 2 | 節水（寒川浄水場を見学する） | 先生（4年） | 児童・教職員（4年） | 移動教室の際に、電気を消すよう、児童に意識づけた。 →引き続き行い、意識を高めていきたい。 【節水】 寒川浄水場の見学には行かず、環境事業センターの見学に変更になったが、社会科の「水はどこから」の学習を通して、水の大切さについて学び、水を大切にしようとする意識を高めた。 →今後も、学習を通して水の大切さを意識させるとともに、日常の声かけを続けていく。 自分の持ち物を大切にしよう呼びかけるとともに、持ち物に記名するよう呼びかけた。 落とし物コーナーの整理を児童がおこない、落とし物の多さを実感していた。 →来年度も引き続きおこなう。 【電気自動車体験学習】 企業が企画している「わくわくエコスクール」（電気自動車体験学習）を行った。 →電気自動車（エコカー）についての体験学習を通して、電気を大切にすることが、環境問題の改善につながることに気づき、節電の意識を高めた。 | 【理由】 空調、電気の消し忘れがたまにある 【今後の課題】 落とし物を減らすよう、委員会活動で呼びかけるなど、児童の活動にとりいれ、意識化できるように促す。 【次年度への引継ぎ事項】 引き続き全校での活動を継続していく。 教職員だけでなく、児童の意識を高めるために、節電・節水・落とし物を減らす対策について、委員会活動などを通して児童を関わらせるようにする。 |
| | | 3 | 全児童に自分の持ち物を大切にしよう呼びかける | 先生（1年）（2年）（3年）（4年）（5年）（6年） | 全校 | | |
| | | 4 | 電気自動車体験学習 | 先生（5年） | 児童・教職員（5年） | | |
| | | | | | | | |
| 捨てるごみを減らす活動 | ・ごみを資源として活かす心を育む。 | 1 | ごみの分別 | 先生（1年）（2年）（3年）（4年）（5年）（6年） | 全校 | 【教室で出るごみの分別】 燃やせるごみ、プラごみを日常的に意識して分別する。 →来年度も引き続き行う。 【美化活動】 清掃活動を各学級丁寧に取り組んだ。環境委員会で、特にきれいに清掃できた学級を知らせる活動を通して、生活の場をきれいに保とうとする意識を高めた。 →来年度も引き続き行う。 【環境事業センターの見学】 社会科の「ごみはどこへ」の学習の中で、環境事業センターを見学し、センターの方のお話を聞くことを通して、ごみを減らすこと、分別する意識を高めた。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ごみの分別や清掃活動は、委員会、クラスで活動することができた。 【今後の課題】 全校の意識づけが十分でなかった。 学年やクラスの取組みを全校にひろげていくようにする。 【次年度への引継ぎ事項】 委員会活動を中心して、全校を巻き込んだ活動をしていく。 |
| | | 2 | 美化活動 | 先生（1年）（2年）（3年）（4年）（5年）（6年） | 全校 | | |
| | | 3 | 環境事業センターの見学 | 先生（4年） | 児童・教職員（4年） | | |
| | | | | | | | |

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

写真

写真

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】日高 大司郎

【今後の方向性について】

各学年毎に、教科・領域に関連した活動、総合的な学習の中で子どもたちの興味関心に合わせた、環境やSDGsに係る取組等は、来年度も引き続き継続していこうと考えている。その過程では、様々な大人との関わり・つながりを大切に、ゲストティーチャー等に入ってもらい機会も設けたい。

来年度、学校運営の柱を「子ども主体の学校づくり」としたことから、委員会活動が、学校全体に関わる当番活動だけになってしまわず、児童発信の活動を創造・提案していける場としたいと考えている。環境に関わる活動についても、関係する委員会で話し合い、全校児童を巻き込んだ活動につなげられたらと期待している。

環境学習は、子どもたちが「正義の人」となって、様々呼びかけたり、啓蒙するような活動だけでは意味がない。自分たちが環境等について考え、何をすべきなのか、自分たちに取り組めることは何かと、必ず具体的な取り組みにつながる活動を創りたい。